柳田國男と南方熊楠

櫻井先生（写真後列右から２番目）は柳田賞と南方熊楠賞という賞を受けています。柳田國男（写真前列右端）と南方熊楠はどちらも、民俗学において大変重要な人物です。そこで、このふたりについて説明します。

● 柳田國男

櫻井先生が教えを受けたのが、日本の民俗学を創り出した柳田國男（明治8年（1875）～昭和37年（1962））という人物です。

柳田が民俗に関心をもつようになったのは、明治41年（1908）に訪れた宮崎県の椎葉村への旅行と、同じ年に岩手県の遠野の人から聞いた、その地に残る昔話や伝説でした。椎葉村で見たことや聞いたことをもとに翌年に『後狩詞記』、さらにその翌年に『遠野物語』を出版しました。柳田の関心は、次第に、のちの民俗学へと向かっていきました。

昭和10年（1935）には、柳田は『郷土生活の研究法』という本を出しました。前年の『民間伝承論』という本とともに、この頃に、民俗学という学問が形作られていきました。

● 南方熊楠

南方熊楠（慶応３年（1867）～昭和16年（1941））は菌類の研究や民俗学で大きな業績を残しました。アメリカやイギリスに行き、大英博物館という世界的な博物館で学ぶことを許されるまでに評価されました。

明治33年（1900）に帰国した後も、菌類などの採集を行う一方で、民俗学の論文を発表しています。柳田國男も南方の知識に敬服し、教えを請いました。

南方は自らの研究を体系的にまとめて世に示すことはありませんでしたが、日本の民俗を世界の事例と比較するという視点を強くもっていました。

櫻井先生はシャマニズムの研究を通じて、日本と東アジアとの比較を試みました。南方熊楠賞の受賞は、そのような点が改めて評価されたといえます。

櫻井徳太郎文庫（板橋区公文書館）・櫻井徳太郎賞

櫻井徳太郎文庫は板橋区公文書館に付設されています。ここでは板橋区公文書館と櫻井徳太郎文庫について説明をします。また、櫻井徳太郎賞を紹介します。

● 板橋区公文書館

区役所でいろいろな仕事をするとたくさんの書類（公文書）を作ります。その書類は決められた期間大切に保存します。そして、保存しておかなければならない期間が過ぎた公文書は、役目を終えた書類として捨てられることになります。しかし、役目を終えた公文書のなかで、板橋区がどんな事業をしたのか、区民の皆さんの暮らしにどうかかわったかを明らかにする公文書については、区民全体の財産として永久に保存します。

このように歴史資料として大切な公文書を選んで、整理・保存し、公開していく施設が公文書館です。

また、公文書以外に統計・報告書などの行政資料、板橋区史編さん過程で収集した資料（複写物）、写真、地図なども保存・公開しています。

● 所蔵資料

移管整理済み公文書	約 37,600 点
刊行物等の行政資料	約 11,900 点
いたばし郷土史関係資料	約 53,500 点
他自治体史	約 1,900 点
写真資料	約 65,000 点
地図資料	約 1,000 点

● 櫻井徳太郎文庫

民俗学や歴史・宗教研究で大きな業績を残した櫻井徳太郎氏が板橋区に対して寄贈された民俗・歴史関係学術書等38,198 点が、一部を除き閲覧できます。

学術書	14,833 点
CD・DVD	422 点
スクラップ・民俗調査写真等	72 点
フィールドノート	247 点
雑誌	20,238 点
写真アルバム	16 点
証書・賞状・免許状等	69 点
抜刷等	2,301 点

● 利用案内

住所：〒173-0001 東京都板橋区本町 24-1

電話：03-3579-2291

開館日：火曜日～土曜日

（この期間は祝日も開館）

休館日：日曜日・月曜日（祝日も休館）、年末年始（12 月 29 日～ 1 月 3 日）

開館時間：午前 9 時～午後 5 時

入館料：無料

● 櫻井徳太郎賞

本賞は日本の歴史や民俗学の研究により、民間伝承文化の啓発に偉大な寄与・貢献をされた櫻井徳太郎氏の業績を顕彰するとともに、次代を担う青少年の地域研究を奨励し、郷土愛を育み、また、地域に視座を据えた調査研究の発展と文化の向上を目的として平成 14 年度に創設しました。なお、平成 20 年度より櫻井賞から櫻井徳太郎賞に名称を変更しました。

具体的には、下記募集要項に示されているとおり、一般、高校生、小・中学生から論文・作文を募集し、審査のうえ入賞者を決定して表彰しています。

● 募集要項（抜粋）

◆ 一般の部（大学生・大学院生を含む）

募集内容　地域を限定してテーマを設定し、民俗学（民俗芸能を含む）・歴史学・考古学的手法により調査・研究してまとめた未発表の研究論文。特にフィールドワークなどによって発掘した新しい資料や、学際的な視点によってまとめられた未発表の論文を募集します。

文字数など　20,000 字以上 30,000 字以内（400 字詰原稿用紙で 50 ～ 75 枚）。

◆ 高校生の部

募集内容　地域を限定して歴史・民俗的なテーマを選び、①個人で調べたことをまとめた作文、②個人もしくは共同で調査・研究してまとめた成果物（二重投稿は避けてください）。

文字数など

① 4,000 字以上 8,000 字以内（400 字詰原稿用紙で 10 ～ 20 枚）。

② スタイルや字数不問。800 字程度で研究の目的と成果をまとめた要旨をつけてください。

◆ 小・中学生の部

募集内容　身近に存在する古くからあるものや昔の生活について、実際にたずねてみたり、大人から聞き取りを行ったりして、感じたことや分かったことなどをまとめた作文。

文字数など　400 字詰原稿用紙 3 ～ 7 枚に自筆してください。

● 賞

◆ 一般の部

大賞　1 編　賞金 30 万円

◆ 高校生の部

最優秀賞　1 編　図書カード 5 万円分

優秀賞　3 編　図書カード 2 万円分

佳作　5 編　図書カード 5 千円分

◆ 小・中学生の部

最優秀賞　1 編　図書カード 2 万円分

優秀賞　3 編　図書カード 5 千円分

佳作　5 編　図書カード 2 千円分

櫻井徳太郎主要著作

●櫻井徳太郎主要著作

櫻井徳太郎著作集（吉川弘文館）
『講集団の研究』著作集第１巻、昭和 63 年（1988）
『神仏交渉史の研究』著作集第２巻、昭和 62 年（1987）
『民間信仰の研究（上）－共同体の民俗規制－』著作集第３巻、昭和 63 年（1988）
『民間信仰の研究（下）－呪術と信仰－』著作集第４巻、平成２年（1990）
『日本シャマニズムの研究（上）－伝承と生態－』著作集第５巻、昭和 63 年（1988）
『日本シャマニズムの研究（下）－構造と機能－』著作集第６巻、昭和 63 年（1988）
『東アジアの民俗宗教』著作集第７巻、昭和 62 年（1987）
『歴史民俗学の構想』著作集第８巻、平成元年（1989）
『民俗儀礼の研究』著作集第９巻、昭和 62 年（1987）
『櫻井徳太郎著作集総索引：付著作目録』著作集別巻、平成３年（1991）

『昔ばなし－日本人の心のふるさと－』、社会思想研究会出版部、昭和 32 年（1957）
（改訂版：塙書房、昭和 47 年（1972））
『日本民間信仰論』、雄山閣、昭和 33 年（1958）（増訂版：弘文堂、昭和 45 年（1970））
『講集団成立過程の研究』、吉川弘文館、昭和 37 年（1962）
『民間信仰』、塙書房、昭和 41 年（1966）
『死霊の誘い－民俗学への招待－』、人物往来社、昭和 42 年（1967）
『神仏交渉史研究－民俗における文化接触の問題－』、吉川弘文館、昭和 43 年（1968）
『祭りと信仰－民俗学への招待－』、新人物往来社、昭和 45 年（1970）
（講談社学術文庫：講談社、昭和 62 年（1987））
『民間信仰と現代社会－人間と呪術－』、評論社、昭和 46 年（1971）
『沖縄のシャマニズム－民間巫女の生態と機能－』、弘文堂、昭和 48 年（1973）
『日本のシャマニズム（上巻）－民間巫女の伝承と生態－』、吉川弘文館、昭和 49 年（1974）
『霊魂観の系譜－歴史民俗学の視点－』、筑摩書房、昭和 52 年（1977）
（講談社学術文庫：講談社、平成元年（1989））
『日本のシャマニズム（下巻）－民間巫俗の構造と機能－』、吉川弘文館、昭和 52 年（1977）
『結衆の原点－共同体の崩壊と再生－』、弘文堂、昭和 60 年（1985）
『伝承の相貌－民俗学四十年－』、吉川弘文館、昭和 62 年（1987）
『民俗探訪』１～４、法蔵館、平成４年（1992）～平成５年（1993）
『昔話の民俗学』（講談社学術文庫）、講談社、平成８年（1996）
『私説柳田國男』、吉川弘文館、平成 15 年（2003）
『新編霊魂観の系譜』（ちくま学芸文庫）、筑摩書房、平成 24 年（2012）

●参考文献

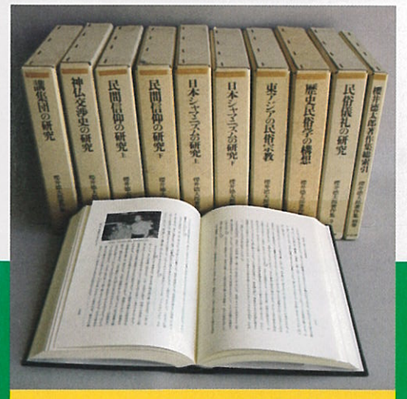
※櫻井徳太郎主要著作を除く

佐々木宏幹編『民俗学の地平－櫻井徳太郎の世界－』、岩田書院、平成 19 年（2007）
矢野敬一「戦前における柳田国男著作の受容－櫻井徳太郎文庫所蔵書籍を事例として－」（『静岡大学教育学部研究報告』（人文・社会科学篇）、平成 20 年（2008））
長谷部八朗「「土着化」論より見た宗教交渉史研究－櫻井徳太郎の所説をめぐって－」（『宗教史とは何か』上巻、リトン、平成 20 年（2008））
真野俊和『日本民俗学原論－人文学のためのレッスン－』、吉川弘文館、平成 21 年（2009）
長谷部八朗「「桜井民俗学」と講研究」（長谷部八朗編著『「講」研究の可能性』、平成 25 年（2013））
『櫻井徳太郎先生　年譜・著作目録』、櫻井徳太郎先生古稀記念会、昭和 62 年（1987）

赤田光男他共著『日本民俗学』、弘文堂、昭和 59 年（1984）
瀬川清子・植松明石編『日本民俗学のエッセンス－日本民俗学の成立と展開－』（増補版）、平成６年（1994）
福田アジオ『民俗学者柳田国男』、御茶の水書房、平成 12 年（2000）
鶴見和子『南方熊楠－地球志向の比較学－』、講談社、昭和 56 年（1981）
『あゆみ　南方熊楠賞の 20 年と顕彰事業の足跡』、南方熊楠顕彰会、平成 23 年（2011）

『いたばしの昔ばなし』、板橋区教育委員会、昭和 53 年（1978）（第４版：平成４年（1992））
板橋史談会古神札調査部編『御札－板橋区徳丸　粕谷家古神札資料集－』、板橋史談会、平成５年（1993）
『板橋区史』資料編５・民俗、板橋区、平成９年（1997）
『いたばしの田遊び』、板橋区教育委員会、平成 27 年（2015）

『板橋区立郷土資料館紀要』第８号、平成２年（1990）
『板橋史談』
第 99 号（昭和 58 年（1983））、第 141 号（平成２年（1990））、第 187 号（平成 10 年（1998））、
第 243 号（平成 19 年（2007））、第 282 号（平成 26 年（2014））



櫻井徳太郎年譜

年（元号）	年（西暦）	年齢	出来事
大正 6 年	1917	0 歳	新潟県北魚沼郡川口村大字和南津（現、長岡市）に櫻井藤吉・ツルの長男として誕生。
昭和 4 年	1929	12 歳	川口村立和南津尋常小学校を卒業。
昭和 6 年	1931	14 歳	川口村立川口尋常高等小学校高等科を卒業。新潟県高田師範学校本科第一部に入学。
昭和 11 年	1936	19 歳	高田師範学校本科第一部卒業。高田師範学校専攻科に入学。
昭和 12 年	1937	20 歳	高田師範学校専攻科を卒業。東京高等師範学校に合格するが、兵役のため入学は 1 年間延期。 高田市立南本町尋常小学校訓導を約半年間勤める。
昭和 13 年	1938	21 歳	東京高等師範学校文科第四部（地歴専攻）に入学。
昭和 16 年	1941	24 歳	東京高等師範学校文科第四部（地歴専攻）を卒業（太平洋戦争勃発のため 3 ヶ月繰り上げ）。
昭和 17 年	1942	25 歳	東京高等師範学校臨時補修科（戦時措置）を経て、東京文理科大学史学科（国史学専攻）に入学。
昭和 19 年	1944	27 歳	東京文理科大学史学科（国史学専攻）を卒業。卒業論文『報恩思想成立史試論』。 東京高等師範学校助教授就任。附属小学校訓導を兼任。
昭和 20 年	1945	28 歳	生家で終戦を迎える。
昭和 21 年	1946	29 歳	東京文理科大学国史学教室助手に就任。 和歌森太郎の紹介で柳田國男主宰の研究会に参加。 麹町区富士見町から東京高師寄宿舎桐花寮内の教職員官舎に移る。
昭和 26 年	1951	34 歳	日本民俗学会評議員に推薦される。
昭和 28 年	1953	36 歳	板橋区志村中台町（現、中台）に居を構える。 東京教育大学文学部日本史学科助手に就任。民俗学研究所所員・理事に就任。
昭和 31 年	1956	39 歳	日本歴史学協会副委員長に選任。
昭和 33 年	1958	41 歳	『日本民間信仰論』刊行。
昭和 34 年	1959	42 歳	『日本民間信仰論』により、東京文理科大学閉学記念賞受賞。
昭和 36 年	1961	44 歳	東京教育大学文学部助教授（大学院担当）に就任。
昭和 37 年	1962	45 歳	学位論文『地域社会における講の沈着過程の研究』により、東京文理科大学から文学博士の学士を受ける。 『講集団成立過程の研究』刊行。 柳田國男死去（享年 88 歳）。調査地で柳田國男の死去を知り、帰京。 『講集団成立過程の研究』により、第一回柳田賞を受賞。
昭和 43 年	1968	51 歳	『神仏交渉史研究』刊行。
昭和 47 年	1972	55 歳	近代化論再検討研究会（代表鶴見和子）に参加。
昭和 48 年	1973	56 歳	『沖縄のシャマニズム』刊行。
昭和 49 年	1974	57 歳	東京教育大学文学部教授（大学院担当）に就任。『日本のシャマニズム』上巻刊行。
昭和 50 年	1975	58 歳	柳田国男生誕百年記念誌編集委員会の委員長を務める。
昭和 52 年	1977	60 歳	東京教育大学文学部閉鎖に伴い同教授を辞し、駒澤大学文学部教授（大学院博士課程担当）に就任。 日本民俗学会代表理事に選任。 『霊魂観の系譜』・『日本のシャマニズム』下巻刊行。
昭和 53 年	1978	61 歳	アジア民俗学協会設立に伴い、日本側代表に選任。
昭和 55 年	1980	63 歳	板橋区文化財保護協議会委員に就任。
昭和 56 年	1981	64 歳	紫綬褒章を受ける。
昭和 57 年	1982	65 歳	板橋史談会会長に就任。
昭和 58 年	1983	66 歳	板橋区文化財保護審議会委員に就任。
昭和 60 年	1985	68 歳	板橋区文化財保護審議会会長に就任。
昭和 61 年	1986	69 歳	駒澤大学初の公選制による学長選挙で学長に就任。
平成 2 年	1990	73 歳	板橋区史編さん調査会会長に就任。 勲三等旭日中綬章を受ける。
平成 3 年	1991	74 歳	駒澤大学を定年により辞し、同大学名誉教授となる。
平成 9 年	1997	80 歳	傘寿を機に公職を辞する。 板橋区長感謝状（文化財保護審議会委員及び会長への功労）・区政功労者の表彰を受ける。
平成 11 年	1999	82 歳	板橋区長感謝状（区史編さん監修に関する功績）を受ける。 蔵書・資料を板橋区に寄贈。
平成 12 年	2000	83 歳	板橋区の区民文化栄誉賞を受賞。 板橋区公文書館開館とともに、寄贈資料から成る「櫻井徳太郎文庫」を開設。
平成 14 年	2002	85 歳	板橋区が条例により「櫻井賞」を設置。第 1 回授与式に出席、挨拶（平成 19 年の第 5 回まで連年）。 第 12 回南方熊楠賞を受賞。 新潟県川口町の名誉町民に選ばれる。
平成 19 年	2007	90 歳	悪性リンパ腫のため逝去。

結びにかえて

リーフレットをご覧になっていかがでしたでしょうか。

板橋には、いろいろな神社やお寺、祭り、昔話などが残されていることがよくおわかりになったのではないかと思います。

平成32年に東京で開催されるオリンピック・パラリンピックに向けて、来日される多くの外国の方々との交流を深める機会も増えていきます。その時に、自分の住む地域の歴史や文化を説明できたら、どんなにすばらしいことでしょう。

区内には、公文書館、郷土資料館、郷土芸能伝承館、図書館等、たくさんの歴史・文化施設があります。多くの区民の方々がこれらの施設を活用して、板橋の民俗や歴史・文化を学んでいただければと思います。

さて、このリーフレットでご紹介した櫻井徳太郎先生は、板橋区に60年余り在住され、審議会の会長や区史の編さんなど、板橋の民俗・文化の研究と普及に多大なご貢献をなされました。板橋区では、先生のご功績を通じて「次代を担う青少年の地域研究を奨励し、郷土愛を育む」ことを目的に、平成 14 年に「櫻井徳太郎賞」を創設し、毎年多数のご応募をいただいております。

平成 29 年は、櫻井徳太郎先生の生誕100年に当たる年です。ぜひこの機会に櫻井徳太郎賞にチャレンジしてみませんか。みなさまからの多数のご応募を心よりお待ちしております。

板橋区長　坂本　健